



子どもたちと先生が

## 未来に希望を持てる学校をつくりたい

### 「楽しく教える」ことを現地の教員たちに伝える

「海外に学校をつくりたい」という友人の志に影響を受け、JICA海外協力隊への参加を決めた星野達郎さん。

派遣先であるグアテマラのキチェ県にある教育事務所では、小学校における算数科教員の指導力向上や定着が目指されていた。そこで星野さんは、「教員同士が互いに学び合うしくみづくり」と「算数研修会」に取り組むことにした。「教員同士が互いに学び合うしくみ」とは、日本の教育現場で行われている授業研究のこと。教員が互いの授業を見学し、その授業を題材にしてどうすれば子どもの学力が伸びるのか学び合う機会を設けた。「算数研修会」は、星野さんや現地職員が講師となり、各校の代表教員を対象に算数授業の指導力向上に向けた研修を行い、研修の学びを自校の教員にも伝えるという内容だ。「現地の教員たちが教えるこ



とを楽しんでもらえるように、知識の押し付けにならないよう心がけました」と話す星野さん。子どもに学びを楽しんでもらうためには、まずは先生が楽しむことが重要であると考え、さまざまな工夫を凝らした研修会は、教員の間で「楽しい」と評判になり、15の街で開催されるに至った。

[帰国後の活動]青森県八戸市

## AOMORI

### 人とつながることで価値を生み出していく

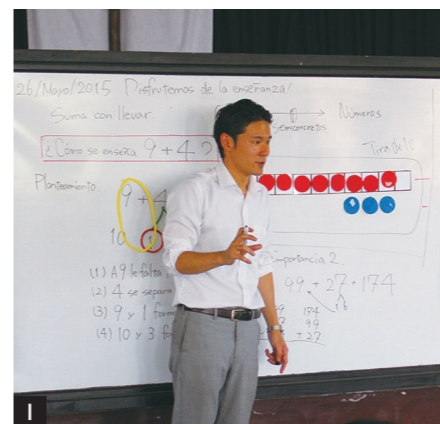
大学在学中は、漠然とした将来を思い描いていた。卒業後すぐに協力隊に参加し、「人とつながることで物事が好転し、大きな価値を生む」ということを実感。グアテマラで活動を行ったことにより見えてきた日本の課題を解決するため、教育の道へ進むことを決意した。現在は小学校で2年生のクラスを担当している。星野さんは、「子どもたちには、まず互いに興味を持って、自分の考えを自分なりのやり方で表現することを教えています。考えが同じでも違って、それを受け入れて楽しむことが大切です」と話す。グアテマラと比較して、日本は本音が言えない子が多いと感じたからこそ、一人ひとりの自分らしさを引き出す指導方法を考えながら子どもたちと向き合っているという。

さらに、\*モンテッソーリ教育の視点を取り入れた週末の遊び場「星のあそび塾」や、子どもの未来と向き合う先生たちのためのオンラインサロン「職員室NEXT」の運営、コロナ禍で苦しむ八戸市の「新むつ旅館」の支援などにも取り組んでいる。これらはすべて、協力隊経験を生かし、地域に飛び込み積極的に人とつながることで好転させてきた活動ばかり。そしてこれからも、教育現場の未来に大きな価値を生み出していくための星野さんの挑戦は続いていく。

\*モンテッソーリ教育は、マリア・モンテッソーリが考案した、子どもの自己教育力に基づいた教育法。



先生のためのオンラインサロン「職員室NEXT」を運営。



1 各校の代表となる教師を集め、算数の研修会を開催。2 現地の方々積極的に交流。



3 現地の方々積極的に交流。

## Voice

八戸市立柏崎小学校  
三角 浩司校長

星野先生は、子どもたちが自分の考えや気持ちを素直に表現できるように、一人ひとりと向き合って教育しています。現場のICT化にもリーダーシップを発揮しており、今後の活躍も大いに期待しています。



八戸市立柏崎小学校  
木村 智恵先生 畑中 裕子先生

星野先生はいつも明るく元気で、地域の方々に自分から話しかけたり、先生に向けた情報発信を積極的に行ったりと、海外での経験が生きていると感じるシーンが多々あり、頼りになる存在です。



子どもたちの明るい声が響く授業風景。

## Message

心からおすすめできる  
チャレンジです

協力隊は、見知らぬ国に住み、現地の方と関係を構築しなければならないという大変な部分もありますが、それ以上に得られるものは多く、心からおすすめできるチャレンジです。帰国後すぐに何かが還元されるというよりは、この経験を軸にじわじわと人生が変わっていくということを、帰国後7年目の今まさに実感しています。

## Profile

星野 達郎

八戸市立柏崎小学校 教諭

[派遣国]グアテマラ

[職種(活動分野)]小学校教育

大学卒業後、新卒で協力隊に参加。帰国後は、小学校の教員として教鞭をとりながら、異年齢間の子どもの交流を支援する「星のあそび塾」を八戸学院大学短期大学部と共催で運営しているほか、先生のためのオンラインサロン「職員室NEXT」を運営。